

支援事例

商工会名	天草市 商工会	氏名	石川 真	情報開示の可否	可
支援テーマ	持続化補助金	題名	人口減少で小規模商店の減少続く中での 販路拡大支援		
	販路拡大・販路支援				
	その他				
	天草市デザイン経営等 取組支援事業補助金				

<支援企業の概要>

事業所名	別城商店	従業員	2 人	創業/ 会社設立	創業日	1956年1月1日
業種	小売業	うち家族従業員	1 人		業歴	68年7ヶ月

○企業概要

別城商店（べっきしょうてん）は、天草市の有明地区にある小規模スーパーである。
 お客様は 周辺地域の方々がほとんどである。幹線道路である国道324号線の通行量は1日平均 約1万台である。
 店舗はこの幹線道路から約1km入ったところに立地している。
 地域にある正覚寺は 1589年の建立であり、事業主の話によれば、先祖は昔、この門前で履物や日用品の店舗を行っていたとのこと、現在の場所は そこから200m程離れた表通りの入口であり昭和53年に移転した。

○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題

人口減少の中での売上確保と、光熱費高騰への利益対策と共に相談を受け、事業計画と戦略策定の支援を行なった。
 平成期からコロナ前にかけて、来店客数は人口と共に減少傾向にあり、コロナ後も影響が続いていた。
 適宜配達の要望にも応え売上を確保しているが、家族経営のため限界がある。
 加えて、元々は青果（野菜や果物）の良さも強みであるが、コロナ前後の購買方法の変化やニーズの推移等により、
 売上に占める割合が減少する月も出ていた。加えて、電気代の半分以上を占める冷蔵庫（商品陳列冷蔵庫）、
 この1つが老朽化し、稼働費と維持費共に、利益と経営を圧迫していた。

○支援内容および支援後の状況・効果

ご相談に基づいて、販路拡大の様々な方法を事業主と複数回にわたり検討し、事業計画策定支援指導を行なった。
 事業主が実際に行なえる取組み、時間や費用が多くかからない方法、通販では今回は差別化やコスト競争できる内容
 ではないため、サブスク（3か月や6か月単位での注文を受け、お客様にあわせた回数で配達、または店頭渡し行なう
 こと）でのお客様の囲い込みを提案し、事業主はこれを販路拡大の方法、事業計画の柱として選択決定した。
 計画を具体化する中で、補助金を活用し サブスクをPRするショーケース（陳列冷蔵庫）の導入も計画に入れ、
 市のデザイン経営等取組支援事業補助金に申請し採択を受けた。

○今後について（目標や課題など）

サブスクの受注時やお客様との連絡の中で、商品提案やレシピ提案にてプラスαの受注獲得も広げられるようになった。
 新たなショーケースをサブスクPR受注促進の展示に活用し、お勤めのセット（2,000円/回セット、3,000/回セット）と
 共に、野菜や果物の受注も進んでいる。この効果で、受注も月ぎめや、バーベキューセット、鍋セット等の予約も増え、
 売上向上と安定が進んでいる。電気代は古い冷蔵庫は電気を止めて棚として使うようにしたため、新型は今までより
 電気代が半分以下になり、猛暑続く夏季においても安定稼働と共に、コスト削減も実現した。
 今後は、さらに長期間の受注を増やすことで仕入れや在庫繰りも行いやすくすることも目指している。